

©創通エージェンシー・サンライズ

PG RX-78-2 COMBAT MOBILE SUIT UNI.T. SPACY PROTO



MG
MASTER GRADE



BANDAI

MOBILE SUIT
RX-78-3

GUNDAM

U.N.T.SPACY PROTOTYPE
CLOSE-COMBAT MOBILE SUIT

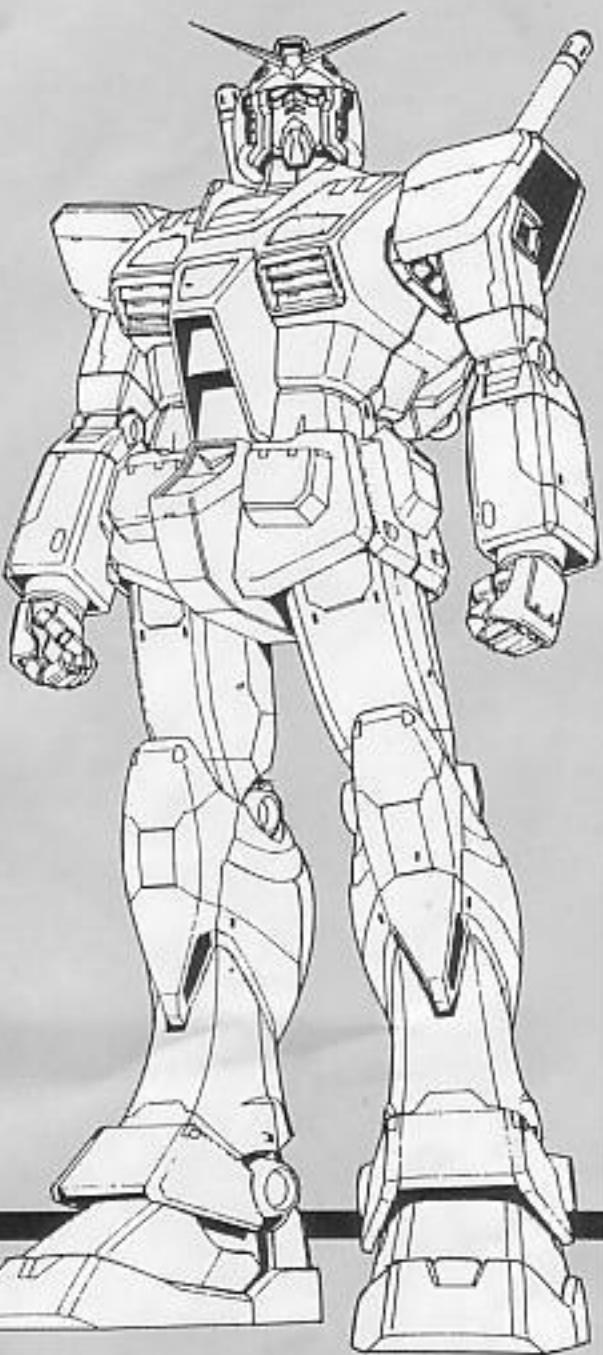


地球連邦軍白兵戦用モビルスーツ
RX-78-3 「G-3 ガンダム」
1/100スケール
マスターグレードモデル

BANDAI 1996 MADE IN JAPAN



Scanned by Dalong.net



建設途上のサイド7第1パンテコロニーを拠点に開発された連邦軍初のMS群は、プロト・タイプとして数機づつ建造された。この時点で連邦軍がジオンに勝っていたのは、新素材の開発能力とビーム兵器の小型化技術だけであった。

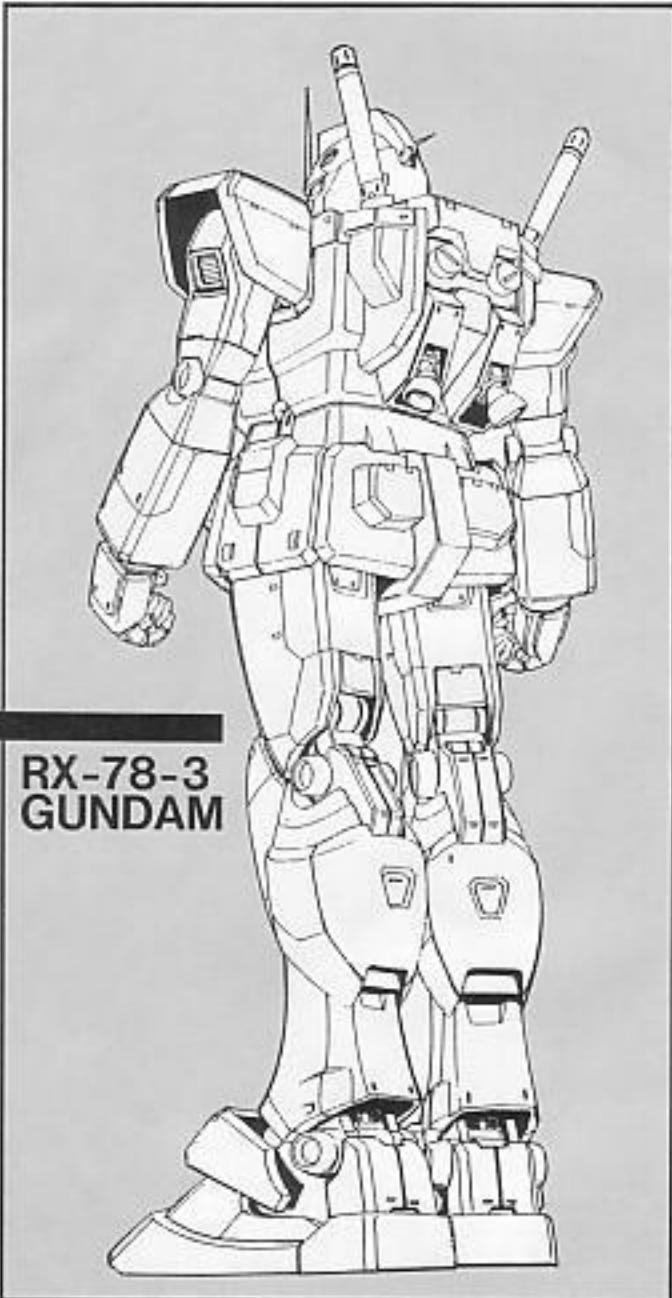
新素材はルナチタニウムと呼ばれる新合金であり、その採掘精製技術は連邦独創のものだった。ルナチタニウム系合金の採用によって大幅な軽量化に成功したガンダムは、高い機動性と運動性を手に入れた。さらにこの素材は装甲材としても優秀であり、堅強な耐久性をもガンダムにもたらしたのである。

また、当時は相撲に大規模な設備がなければ描画できなかったビーム兵器へのエネルギー供給法の衝撃的な技術革新によって、MSによるビーム兵器の携行を可能とし、驚異的な攻撃能力をMSに付与することに成功した。

ガンダムはこれらの技術によって、当時最強の装甲と戦闘用のビーム砲を持つ戦機のMSとして誕生したのである。

人類が、増えすぎた人口を宇宙に移民させるようになって、すでに半世紀が過ぎていた。地球のまわりには巨大なスペースコロニーが数百基うかび、人々は、その人工の大地で子を産み、育て、そして死んでいった。

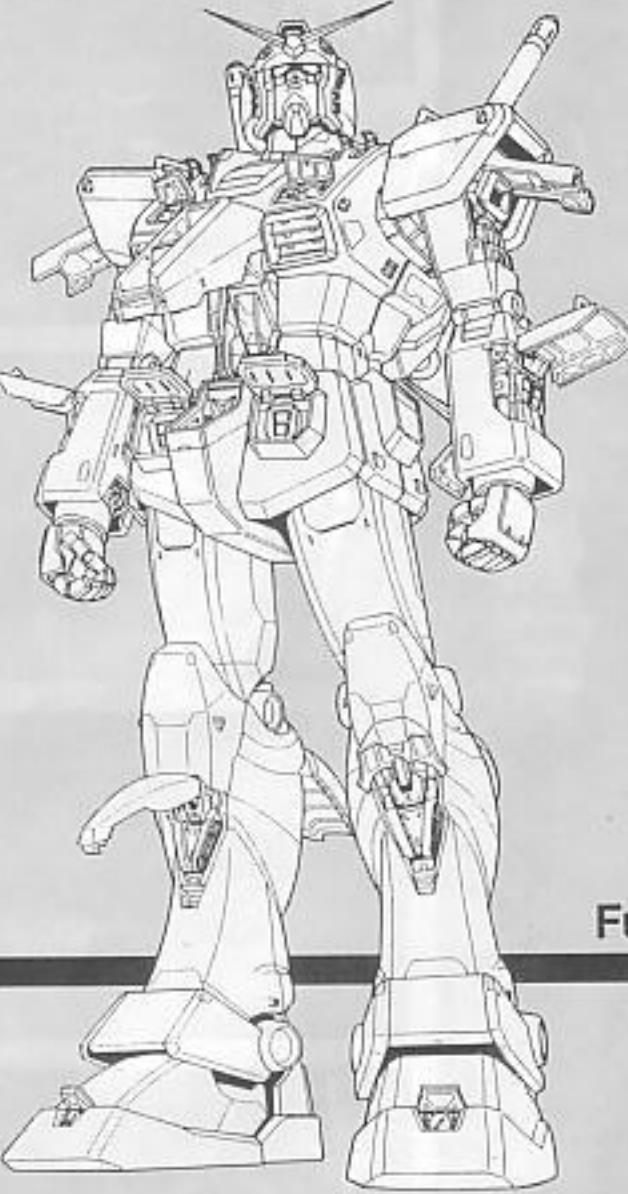
宇宙世纪0079。地球にもっとも遠い宇宙殖民都市サイド3は、ジオン公国を名乗り、地球連邦政府に独立戦争を挑んできた。この一ヶ月あまりの戦いで、人類は、総人口の約半数を死に至らしめた。人々は、その自らの行為に恐怖した。戦争は膠着状態に陥り、八ヶ月あまりが経過した。



ジオン公国が開発したMSは、後に一年戦争と呼ばれるこの戦いで、初めて実戦に投入された。MSとは、人体を模した巨大な汎用機動兵器のこと。正式にはMobile Space Utility Instruments Tactical = 機動戦術汎用宇宙機器と呼称される。

ジオン公国が開発したMSは、10対とも100対ともいわれる連邦と公国の圧倒的な物量差を覆すほどの戦果をあげた。電子砲を無効化するミノフスキーパーティクル散布技術の発達は、奇襲戦を中心とした連邦軍宇宙艦隊の戦略をことごとく打ち碎いた。連邦軍は総戦において敗退した。自殺撤退を可能とするMSは、艦隊決戦という旧来の戦術を過去の遺物としてしまったのだ。

事態を重く見た連邦軍は、捕獲した公国軍のMSサクを研究材料として対抗兵器の開発、量産、運用および投入計画であるV作戦を立案した。その計画に基づいて建造されたのが、ガンダム、ガンタンク、ガンキャノンおよびホワイトベースなのである。



Full Open Mode

ガンダムとザクの最大の違いは、無論すれば量産機であるかプロトタイプであるかの違いだといつてもいいだろう。連邦軍によるMS開発は始まったばかりであり、その運用についても、未知のファクターが多くいた。開発に際しては、あらゆる可能性が探索されていたのである。

連邦軍の将軍と技術者たちは、MSを検証する事からはじめなければならなかった。MSとはどのようなものなのか。さらに、MSを戦術に組み込んだ結果とはどのようなものなのか。ガンダムを始めとする連邦製の各MSは、まさしくその確認のために作られたのだといつても過言ではない。

ザクの運用は、ムサイ級の巡洋艦との組み合わせで行われる事が多い。MSはある程度機動歩兵そのものであると考えられる事ができる。だとすれば、員員輸送と展開の中核となる設備も必要となるだろう。ガンダムとホワイトベースがほぼ同時期に建造されているのはそのためである。

つまり、ホワイトベースをMSという歩兵の展開および後方支援ユニットとし、MS投入の母艦として確保することで、各種戦術および戦闘のシミュレーションを行い、並行してデータ収集を確実なものとする。最悪の場合、実戦投入において実戦データを収集する必要があるかもしれない。そのうえ機体の生存性も高くなければならない。MSそのもののデータ収集は、V作戦における優先事項だったのである。

史上初の対MS兵器として建造されたガンダム本体および周辺の装備は、当時考え得る可能な限りの整備性が確保されている。機体各部はそれぞれ独立した機構として成立しており、現地でのメインテナンスを容易なものとし

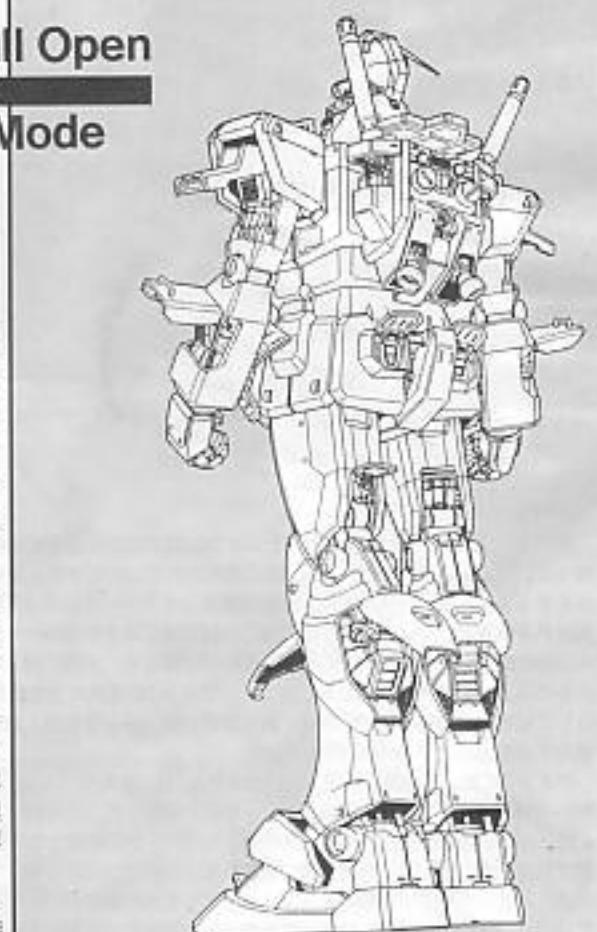
ている。また、コア・ファイターによる中枢ユニットの集中管脚・保護のコンセプトや、過剰とも思えるほどのサバイバビリティは、MSの開発という要件を確実なものとするための苦肉の策でもあったのだ。

ホワイトベースをはじめとするベガス級強襲揚陸艦には最先端の技術が投入され、標準的な戦闘艦艇をはるかに上回るスペックが確保されている。MSを実戦に投入した場合のシミュレーションには、当然、地上戦も含まれる。実際、公国軍は地球上への降下作戦によって、かなりの地域を制圧している。

ベガス級の艦艇は、地上での運用も想定しているため、MSの運用はもとより、ミノフスキークラフトや大気圈突入および脱出能力、大出力のメガ粒子砲などが装備されている。これは、ひとつの実験軽戦闘隊のユニットとして、すべての難局に対応できるように考えられた結果なのである。しかも当時の連邦軍は、MSの技術に応じて、そのつど装備再編ができるほど余裕はない。そのうえ、ガンダムを始めとするMS運用のノウハウは、あらゆる状況を想定して創り出していかなければならない。そのためには、ひとつの艦隊に、可能な限り多くの機能を盛り込まなくてはならない。ベガス級に多くのバリエーションが存在するのは、このような事情によるものなのである。

ガンダムもまた、あらゆる環境での運用を想定しており、空母艦載から重力下、あるいは自由落下、大気圈突入能力など、それまでの兵器が体験したすべての環境にことごとく適応するという過酷な条件をクリアすることを目的にデザインされていた。ガンダムなどの機体は、外観上それほど多くの可動部分を持っていないように見受けられるが、当時のMSは、兵器としてはいまだ開発途上であり、対MS戦闘は一度も行われたことがなかった。MS戦士の格闘という状況が想定される場合、機体各部に複雑な形状を施すわけにはいかないと考えられていた。そのため、この時期の機体は、可能な限りフラットに構成されているのである。

さらに、最前線で使う必要のある秘密兵器という矛盾した目的を併せ持っているため、各部の機構は可能な限り内蔵するようにされている。だからこそ可動部分の引き込みや装甲による対衝撃保護など、二重三重のフェイルセイフが施されているのである。



Explanation					
Parts name of RX-78	RX-78 Snap shot	Head & Arm Unit	Leg & Body	Core Fighter & Weapons	Final Assemble & Parts List
GUNDAM	ACY PROTOTYPE OF COMBAT MOBILE SUIT RX-78-G1				

宇宙世紀0079年、地球連邦政府とジオン公国の戦争は膠着状態に陥っていた。サイドフにおいて極秘裏に開発されていたガンダムを始めとする数機のモビルスーツは、新造戦艦ホワイトベースによって撃出されるはずだった。しかし、公国軍の特務部隊による密襲のためいくつかの機体は損壊し、RX-75型、RX-77型とも、実戦に投入できるのはそれ一種ずつのみであった。サイドフの住民たちを難民として収容したホワイトベースは、搬出可能な機体のみを収容し連邦軍の宇宙基地ルナツーへと向かった。

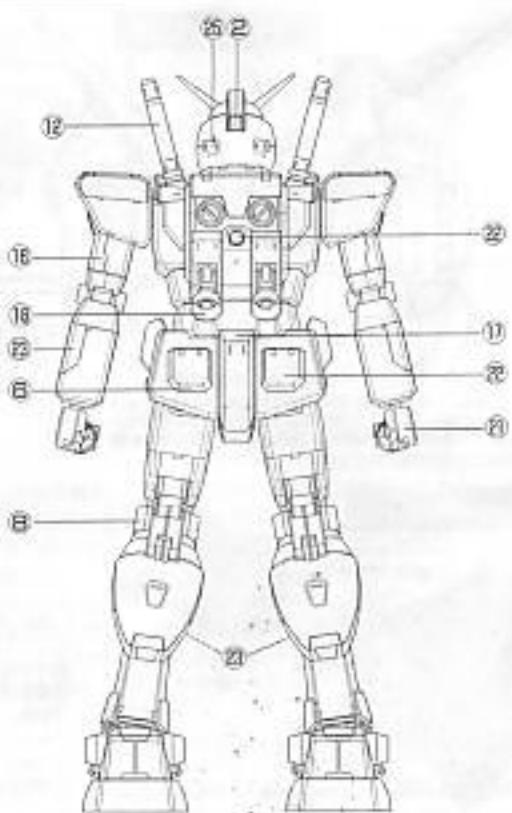
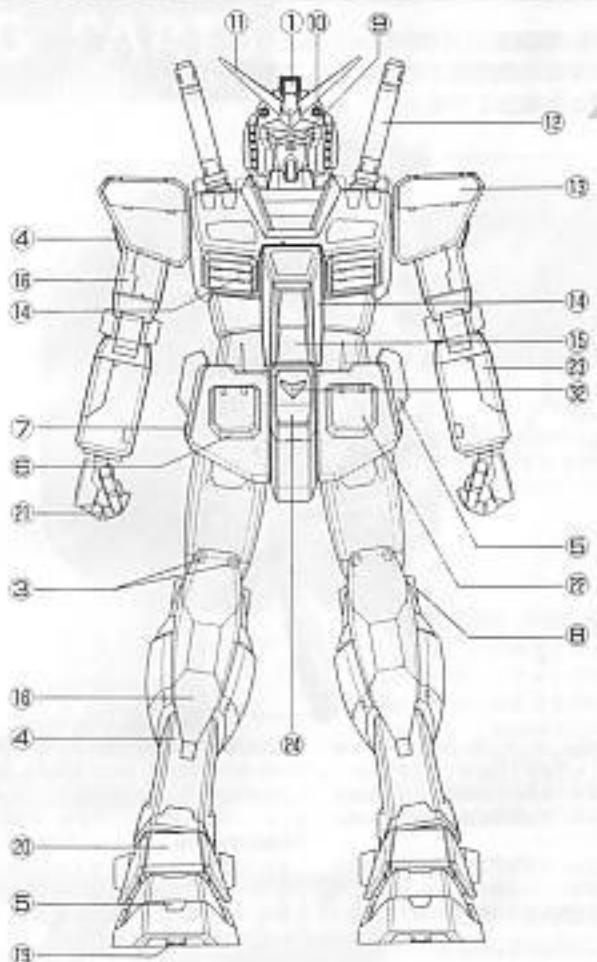
サイドフにおいて開発されていた“ガンダム”は3機あり、いわゆるRX-7Bの割式番号を持つ機体の内、一号機は破壊され、三号機はアムロ・レイの搭乗するRX-7B-2の補修用のバーツ供給機として使用された。その後、オデッサ作戦に前後してこの機体は回収され、マグネットコーティング処理のテストヘッドとして再改修された。そして、並行して開発の進んでいたNT型とのデータ互換および補完を終えた後、再び宇宙へ搬出された。

ガンダムとホワイトベースが、実質的に連邦軍の首脳から厄介扱いされ船部隊としての任務しか与えられなかったのは、その時点でモビルスーツそのものの開発と量産が軌道にのっていたことはちとより、量産の利かないスペシャルな機体は必要とされていなかったことも關係している。少なくともRX-7B“ガンダム”は、戦争という状況においてコストパフォーマンスの折り合わない兵器だったのである。

連邦軍が初期に少数量産したRX-79G型やRGM系のモobilスーツも、あらゆる手段でコスト削減が推進された結果、その原型はほとんどとどめておらず、直系の機体はこの時期には量産されていない。いわゆる“ジム”と呼ばれる本格量産機は“ガンダム”とは全く別の機体だと言っても過言ではない。

星一号作戦の内示に伴って宇宙へ搬出された三号機は、アムロ・レイ搭乗機のマグネット・コーティング処理のひな型として使用された後、実戦に投入されたかどうかは不明のままである。

RX-78-3 GUNDAM

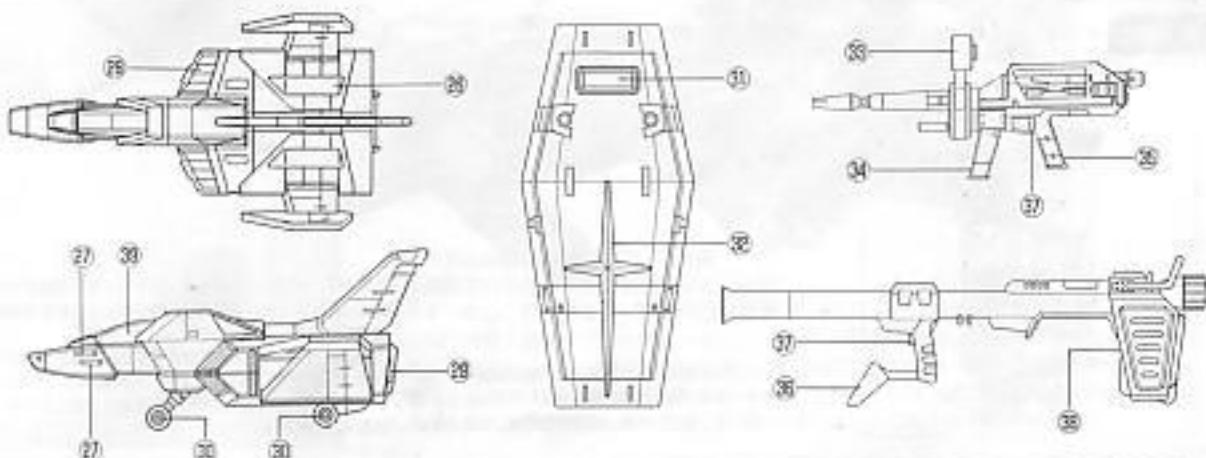


- | | | | | |
|--------------------|---------------|-----------------|----------------|-----------|
| ① メインカメラ | ⑦ デュアルセンサー | ⑪ マウントラッチ | ⑯ ダクト | ⑲ サイトスコープ |
| ② アリアカメラ/センサー | ⑧ 100mmバルカン | ⑫ メインスラスター | ⑭ ミサイルハッチ | ⑳ フィアグリップ |
| ③ バランスマセンサー | ⑨ マルチブレードアンテナ | ⑬ サブスラスター | ⑮ 20mmバルカン | ㉑ グリップ |
| ④ スラスター | ⑩ ビームサーベル | ⑭ アンクルサポートユニット | ㉒ インテーク | ㉓ マスバランサー |
| ⑤ サブシステムコントローラシステム | ㉔ ショルダーアーマー | ㉕ マニピュレーター | ㉔ ロケット/ジェットノズル | ㉕ トリガー |
| ⑥ コンバーターシステム | ㉖ ダクト/スラスター | ㉗ ハードポイント | ㉖ ランディングギア | ㉗ マガジン |
| ㉘ サイドアーマー | ㉘ コクピットハッチ | ㉘ クローリングサフスラスター | ㉘ 小型視型ウイング | ㉘ コクピット |
| ㉙ ニュージョイントアーマー | ㉙ メインテナンスハッチ | ㉙ フィールドテフレクター | ㉙ エンフレム | |

注) この機体はオデッサ作戦に前後する時期にW-Bから回収され北米オーガスタ研究所に移送された後、再改修および各部アクチュエーターの換装、レスポンス向上の試験が行われた時期のものです。

CORE FIGHTER

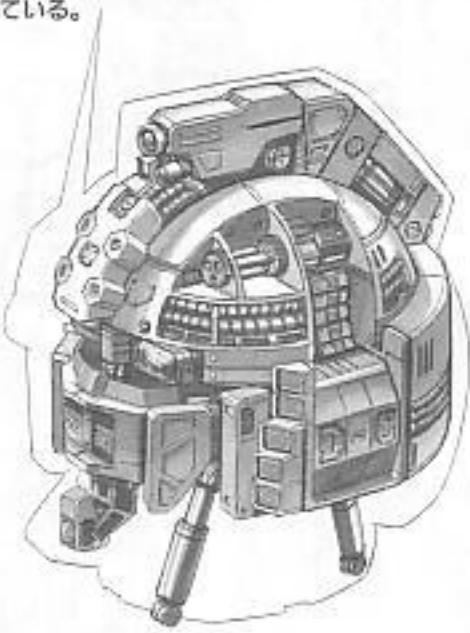
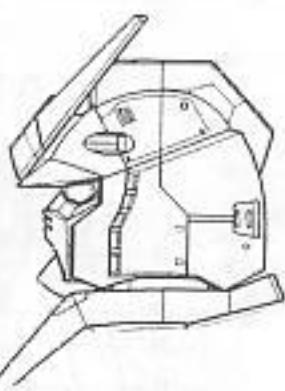
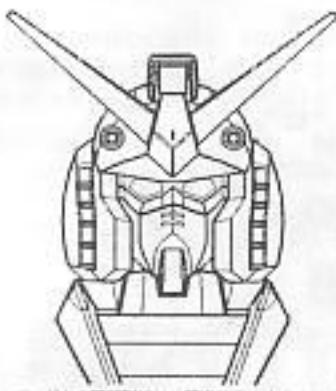
WEAPONS



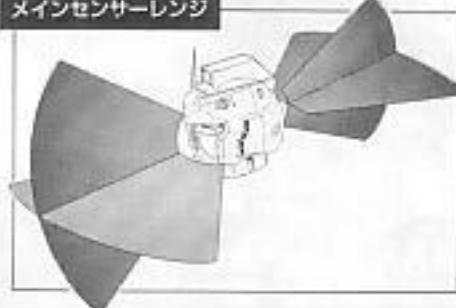
HEAD PARTS

H.U-0078A2-60 / 3.6+

RX-78の頭部は、頭頂部のメインカメラ部と一対のデュアルカメラ、そして2門の60mmバルカンなどが内蔵されている。この構成を基本とした外観はガンダム系MSの特徴ともなっている。



メインセンサーレンジ



MOBILE ARM UNIT

R&R-M322/D725

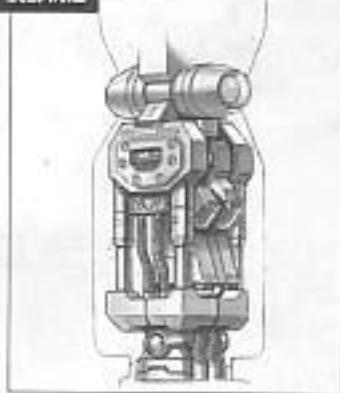
Serial 000004

MSの持つ汎用性は多種多様な武装を容易に変更できることが前提となっている。白兵戦の場合、四肢の性能の優劣が戦闘能力を決定すると言っても過言ではない。

マニピュレーター

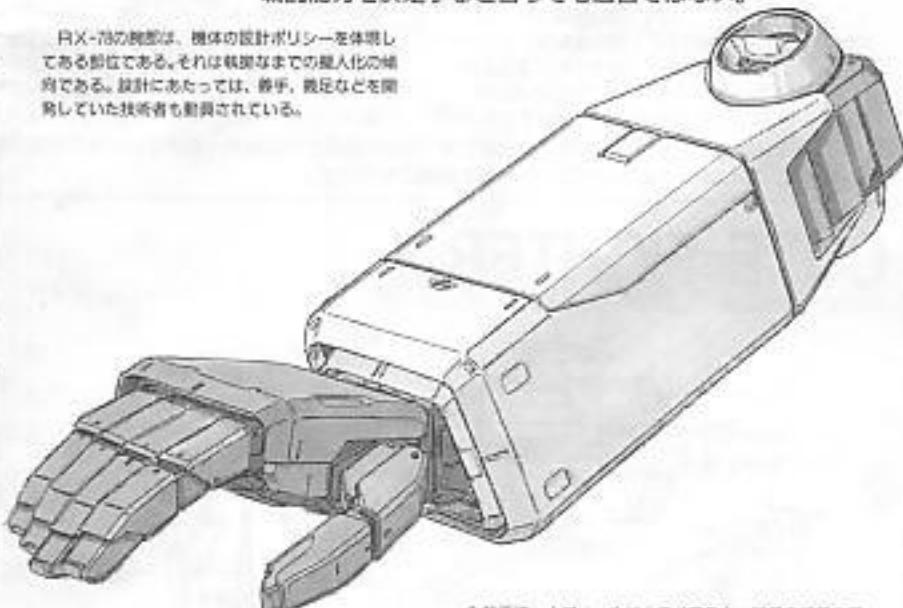


腕部構造



RX-78の腕部は、機体の設計ポリシーを体現している部位である。それは軽量までの簡素化の傾向である。設計にあたっては、拳手、義足などを開拓していた技術者も駆使されている。

ガンダムの各関節部分に採用される駆動装置は、フィールドモーターと呼ばれる新開発のモーターシステムである。これは、三ノフスキー物理学の応用で可能となっ



た技術で、1フィールドと三ノフスキー粒子の相互作用によって、スクールを超えた大出力のトルク発生を可能とする。

このモーターは、連邦軍の技術者と重電重工メーカーのサムソニ・シム社の共同開発によるもので、マニピュレーターの各部にも同様の原理によるアクチュエーターが採用されている。

Explanation

Parts name
of RX-78

RX-78
Snapshot

Head &
Arm Unit

Leg & Body

Core Fighter
& Weapons

Final Assemble
& Parts List

注意

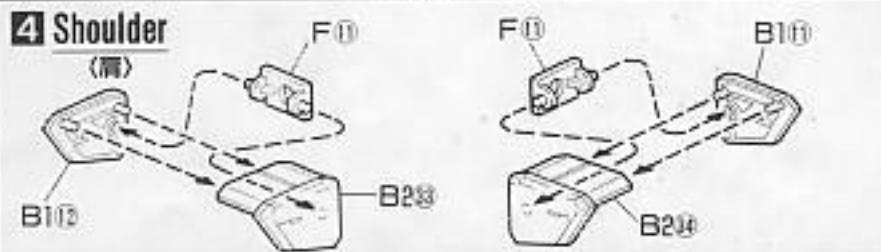
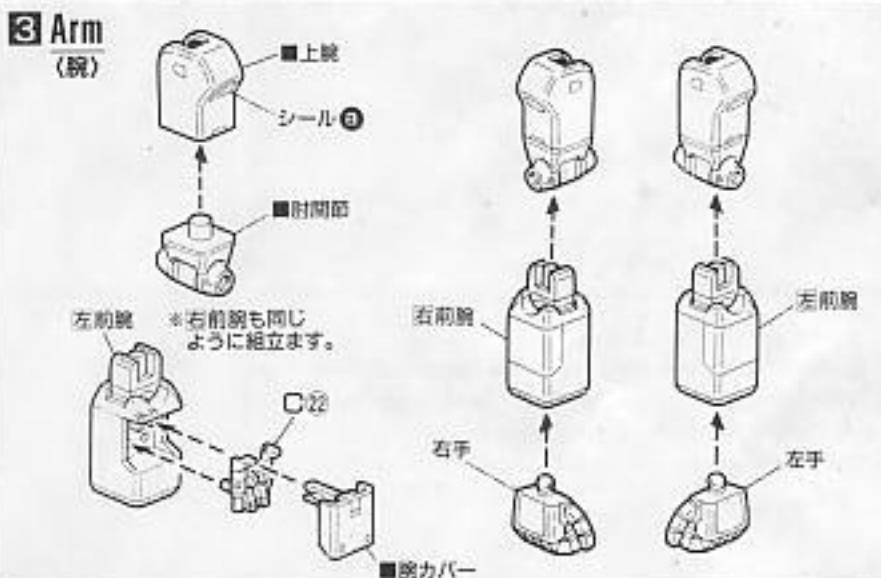
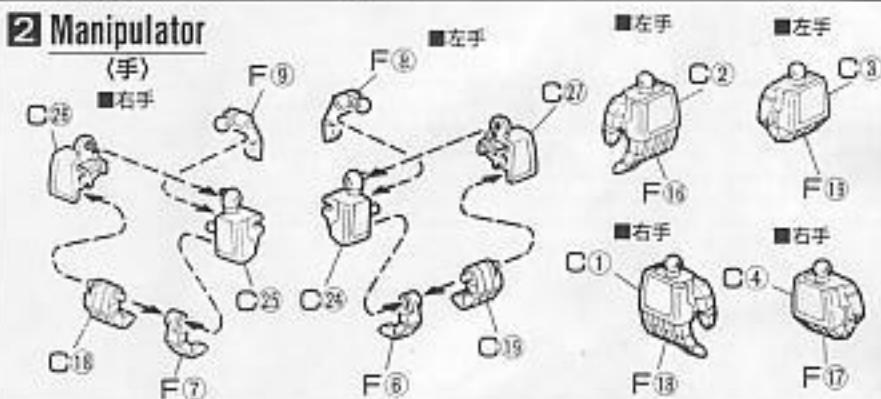
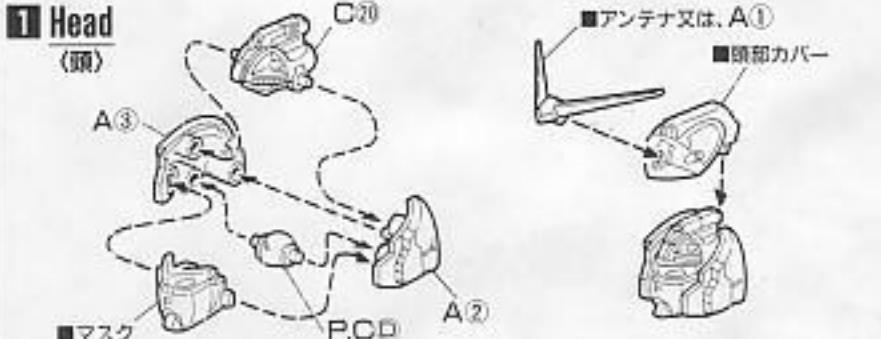
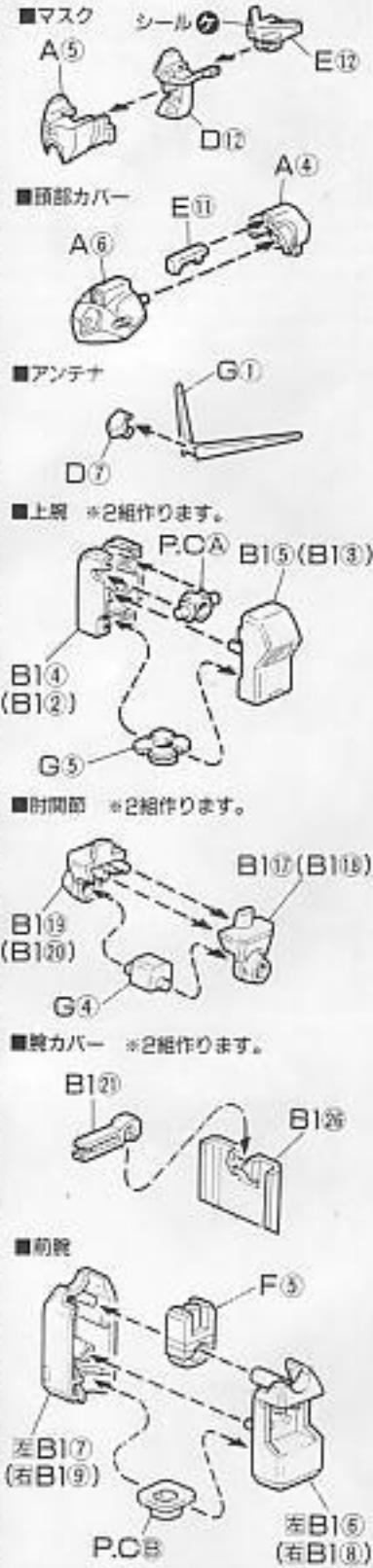
必ずお読みください

- 小さな部品がありますので、誤って飲み込まないように注意してください。窒息などの危険があります。
- 誤飲の危険がありますので、小さなお子様には絶対に与えないでください。
- 接着剤を使用する時は、接着剤の注意書きをよく読んでご使用ください。

このキットには、接着剤は入っておりません。お手数ですがプラスチックモルタル等接着剤を別にお買い求めください。

組み立てる時の注意

- 組み立てる前に説明書をよく読みましょう。
- 部品は番号を確かめ、ニッパーなどできれいに切り取りましょう。切り取った後のクズは捨ててください。
- 部品の中には、やむをえず、どがった所があるものもありますが気をつけて組み立ててください。
- 塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。



FIGHT'S ON

Documentary Photographs

SIDE7



サイド7偵察任務を帯びた2機のザクにより連邦のMS開発計画は遂にジオンの知るところとなった。先行したザクにより1号機は大破、2号機は偶然乗り込んだ民間人の手により起動した。2号機により2機のザクは撃破されたもののガンダム3号機は小破し、回収された後ルナ2に移送されることとなった。

OPERATION-V

ジオン機動兵器の予想を上回る戦果は旧態依然とした連邦軍首脳部の懶闊決戦構想を根底から揺るがした。「V作戦」と呼ばれるMS実戦配備とその支援体制の構成は連邦の技術士官テム・レイの指揮下、サイド7と呼ばれるコロニーで極秘裏に進められ遂にガンダムと呼ばれる3機のMSがロールアウトした。

MAGNET COATING

ガンダム2号機が母艦であるホワイトベースと共に軌道上に飛行し、実戦データを収集する一方、ルナ2に送られた3号機は実験機として様々なテストが繰り返された。実験結果は整備されつつあった連邦軍MS開発に活かされる事となったが、特にモスク・ハン博士の指導により施された粗動系のレスポンス性の向上を目的とするマグネットコーティング処理と呼ばれる技術はガンダム2号機へもフィードバックされ更なる戦果を生んだ。



MARKING

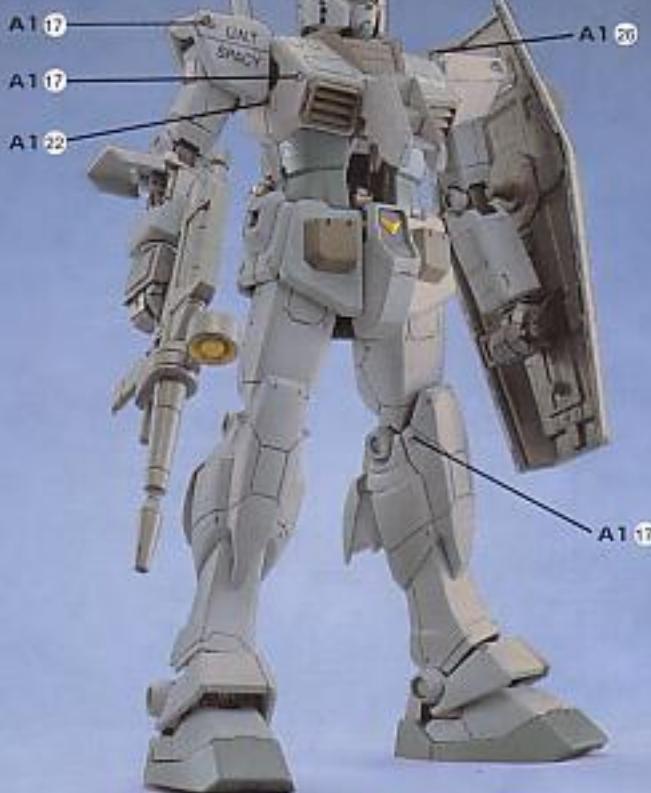
右肩には特殊印刷で、マークを印刷、塗装する方には、同デザインのガンダムテカールをセット。型式番号、注意書き等のマーキングをヘビーユーザーから要望の高いガンダムテカールで再現しました。



DETAIL UP

1/100RX-7B-3ガンダムをさらにリアルに仕上げたい方は、付属のA1⑩ A1⑪とA1⑫を写真を参考にして接着してください。
ディテールアップ用のパーツを接着する場合には、接着剤の付けすぎに注意してください。

ディテールアップ
完成写真



PAINTING

*よりリアルに仕上げたいかたは、下の基本色をご覧ください。
*塗装には、より安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。

本体腕部分などの塗装色。

重藍色(1)

本体脚部分などの塗装色。

エアスペリオリティーブルー

本体インテークや腰部分などの塗装色。

ニュートラルグレー

両脚部分やビームライフルなどの塗装色。

フィールドグレー(1)(50%)+重藍色(2)(50%)

腕内部のメカニック部分などの塗装色。

黒鉄色

ノーマル状態完成写真



◀ 頭部のメインカメラやバルカン砲等のメカニックを再現。
▼ メカニカル感をイメージさせるアクチュエーターとアボジモーターを再現。



◀ スネ部分の大気圏内戦闘用の増速用フースターや、バックパックのメイン動力部、熱核反応炉及び、姿勢制御用バーニニア部分をリアルに再現。

Explanation

Parts name of RX-78

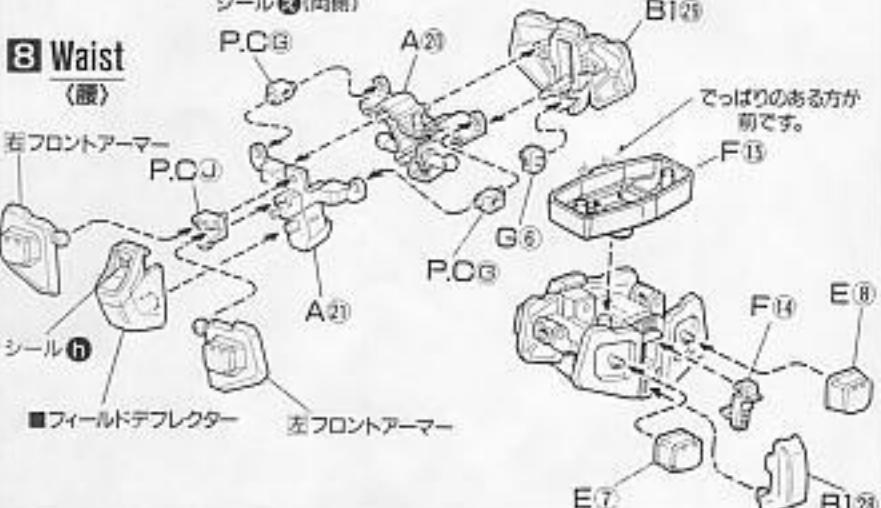
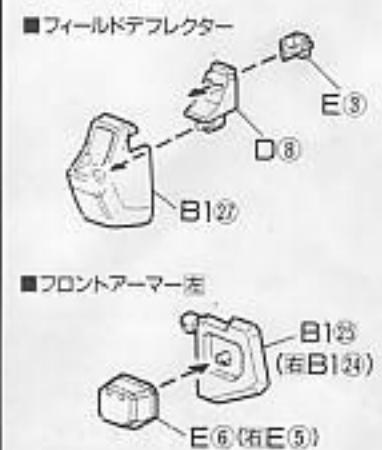
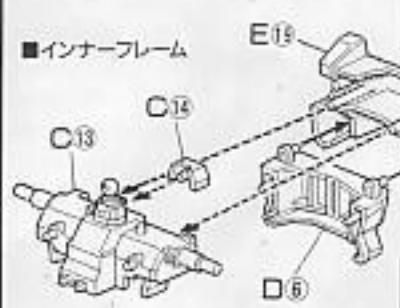
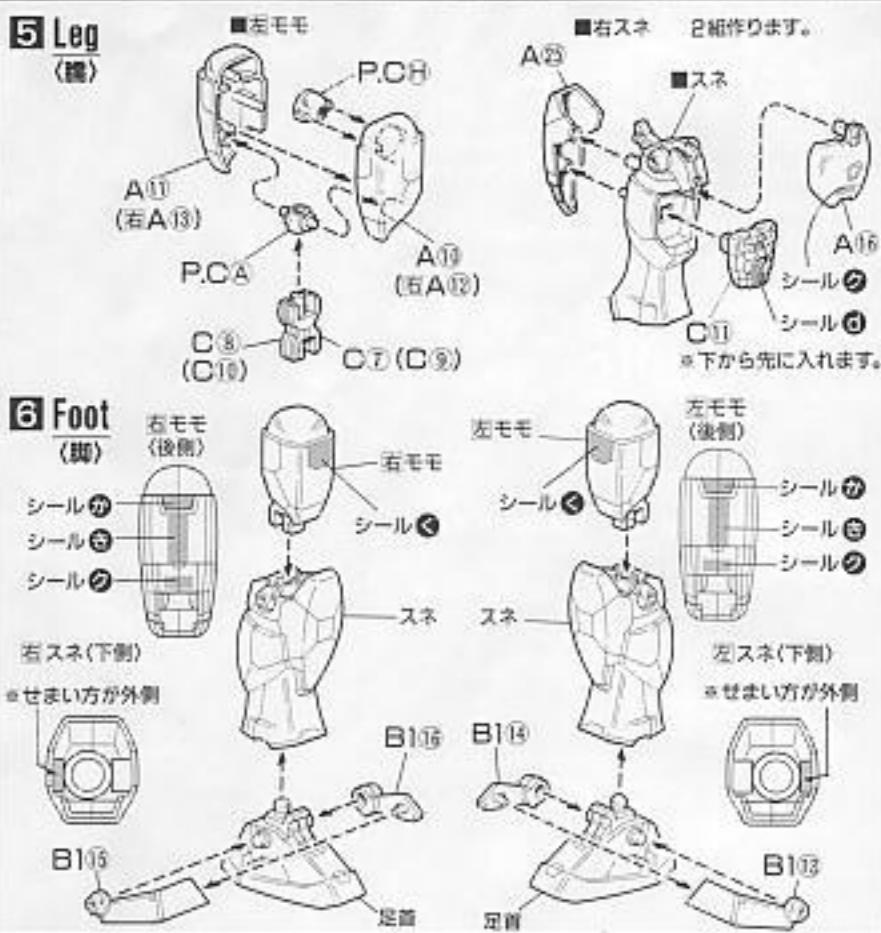
RX-78 Snapshot

Head & Arm Unit

Leg & Body

Core Fighter & Weapons

Final Assemble & Parts List



LEG PARTS

RX-LU-D1/NC3MD/NC7S-3

MSの脚部は、その機動性の多くを担う非常に重要なパートである。重力下では足となって破格の走破性を発揮し、無重量空間では姿勢制御の基本モジュールとして機能するのである。



足部バーニア



膝部マウントラッチ



MSの汎用性は、この脚部によって構成されているといつても過言ではない。また、その用途からは想像もできないほどテクニカルなユニットでもある。

MSの脚部は、非常に複雑な構造となる。その上もっとも酷使される部位でもあるためヘビーデューティーでなければならず、MSの機体のなかでも特に重要なユニットである。2脚歩行そのものはザクから入手した口元の解析で開発期間を短縮できたものの、設計思想が異なる機体であるため、ほとんど独自開発と同様だったという。

脚部は各種武装のハードポイントやマウントラッチ。そしてサブジェネレータのNC-7型、大気密突入時などに使用する耐熱フィルターおよび機体冷却剤噴射ユニットなどが内蔵され、膝部可動のためのターレット構造を取り巻くように配置されている。

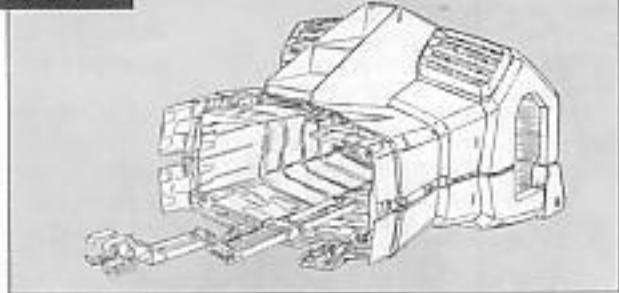
脚部には移動用の独立したNC-3M型のジェネレータが内蔵されており、姿勢制御用バーニアやショックアブソーバーほか、各種センサー・コントローラーおよび、それらを独立・統合制御するコンピューターも装備している。

BODY MODULE

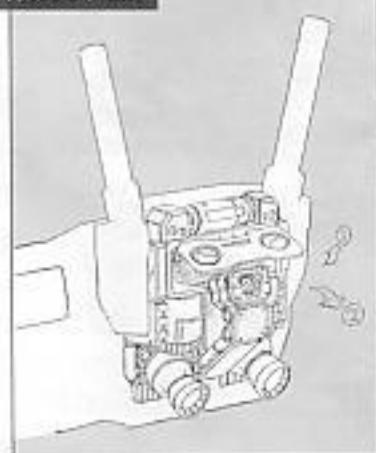
RX-BU-C2/NC3D/NC5D-5

RX-78のボディモジュールは、コア・ファイターを内装した場合、小型化されたコ・ジェネレータと組み合わされることで、ザクと比較して約5倍以上のエネルギーを生み出す。

ボディーパーツ

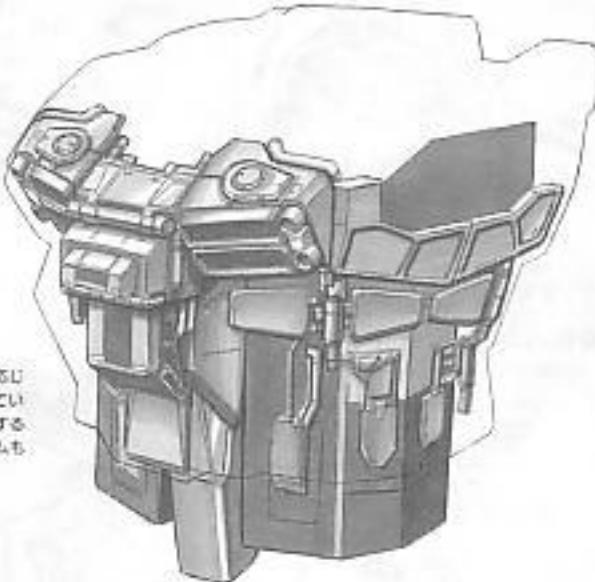


背部ランドセル



RX系の機体は、当初戦況に応じた換装を行うことも想定されていた。また、立体的な戦術に対応するため、空中機動用のガイドアームも装備されている。

ガンダムの動力源は、コア・フィルターに2基搭載されるNC-3型核融合ジェネレータをメインとし、背部のランドセル内にあるタキムNC-5型2基をサブジェネレータとしている。NC型ジェネレータはいずれもタキム社製で、3型は航空/宇宙用の熱核ジェット/ロケットエンジンとしても機能し、メイ

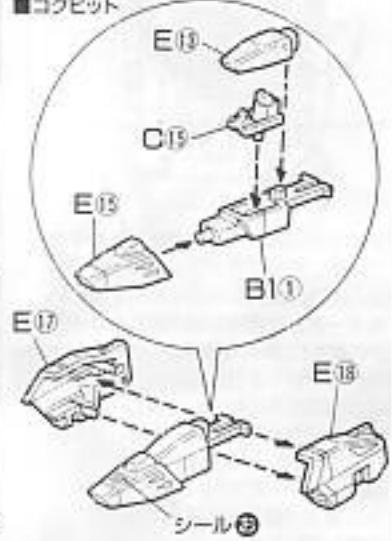


ンスラスターの燃焼にも不可欠な装置である。5型はビームサーベルへのエネルギー供給にも使われる。さらに腰部のNC-7型1基などを含む総出力は当時の宇宙艦艇の水準もはるかに超えるものだった。

Explanation

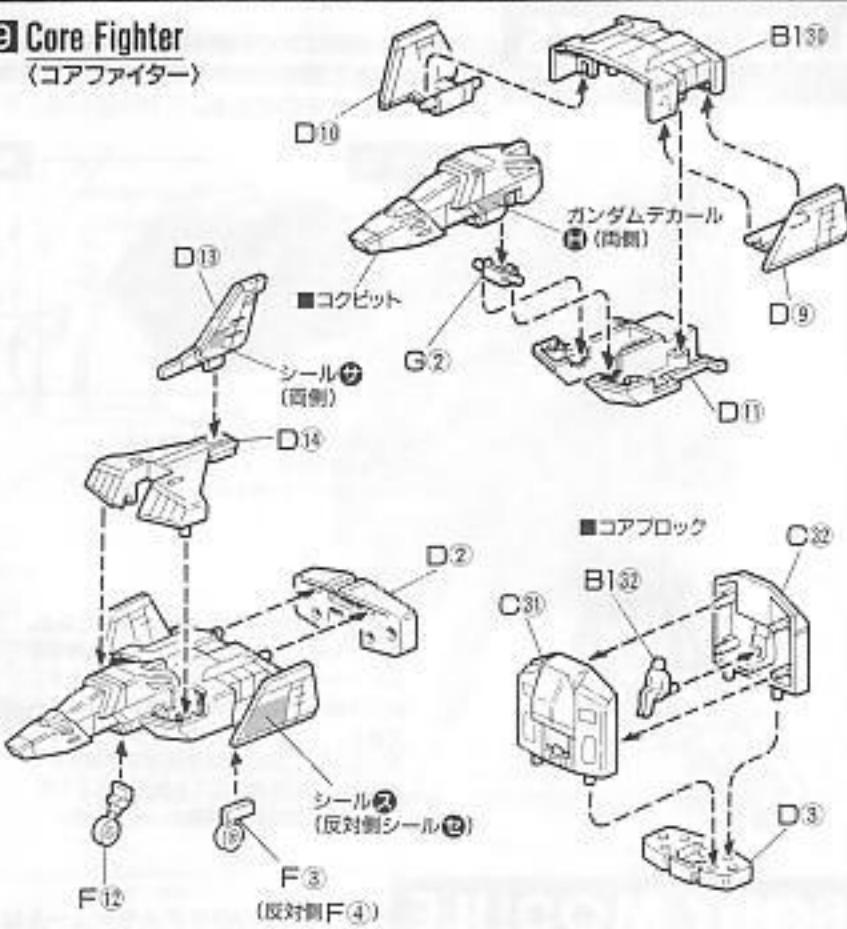
ガンダムテカールのはりかた。
 1. 転写するマークを大まかに切れます。
 2. 転写する場所に軽く押さえ、ボールペン等の先の丸い物で上から軽くこすりつけます。
 3. シート部分を静かにはがし、転写していない部分があれば、もう一度転写していない部分をごすります。

■コクピット

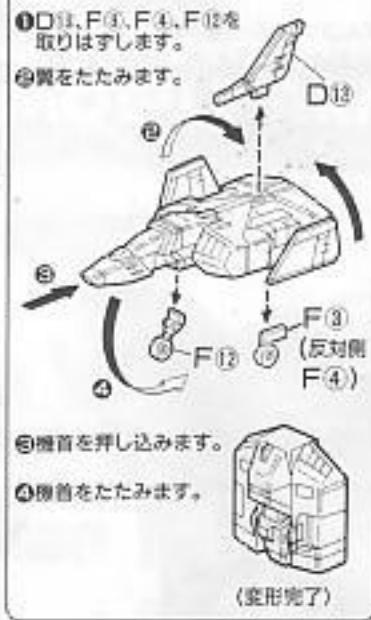


9 Core Fighter

(コアファイター)

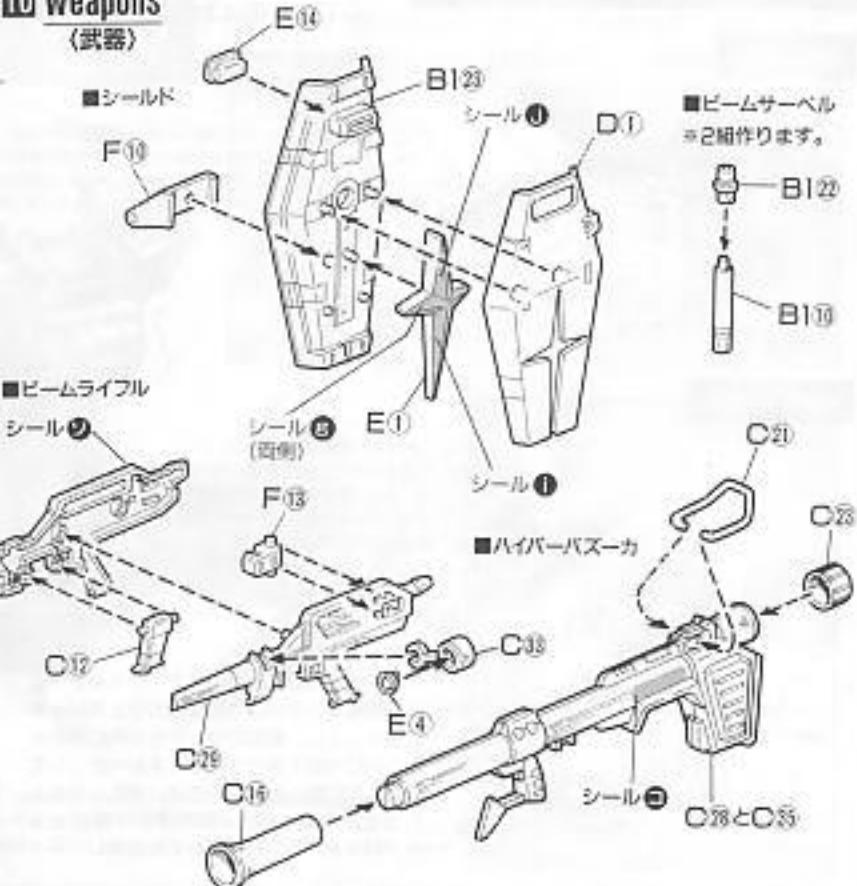


コアブロックへの変形



10 Weapons

(武器)



Parts name of RX-78

RX-78 Snap shot

Head & Arm Unit

Leg & Body

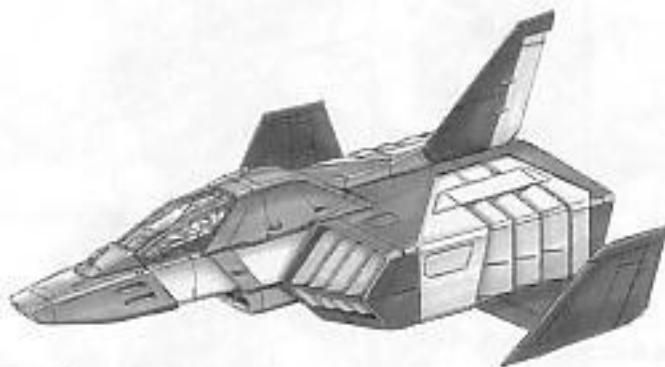
Core Fighter & Weapons

Final Assemble & Parts List

CORE FIGHTER

FF-X7/AE-VB-N8500C

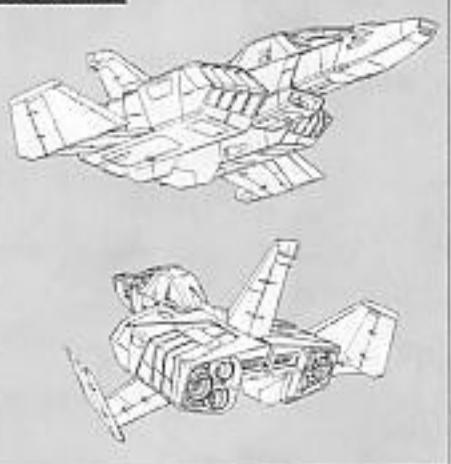
コア・ファイターは、コクピットと教育型コンピュータなどが内装された小型戦闘機で、非常時には脱出ポッドとしても機能する。RX-78の核となるモジュールである。



機体データ

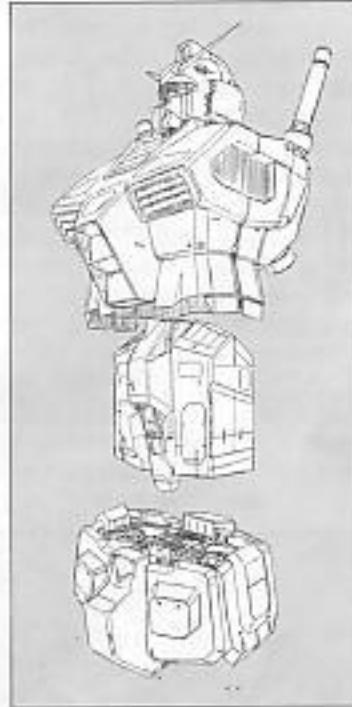
全長	8.8m
全幅	8.8m
全高	3.2m
重量	9.9t
出力	1,000hp
速度	マッハ4.5(大気圏内)
材料	ルナチタニウム
武装	ミサイル2発 30mm/ULガン砲×2

機体各バース



連邦軍によるMS開発でもっとも重視されたのは、実戦によるデータ収集と機体移動および運用ソフトの適正化だった。コア・ファイターに搭載された教育型コンピュータは、パイロットの負担を極力軽減する事を目的とし、新たな敵や環境に適応する能力を持つ。そして、戦闘データは逐次更新され、もっとも適切な対処法を自ら構築していくことができる。

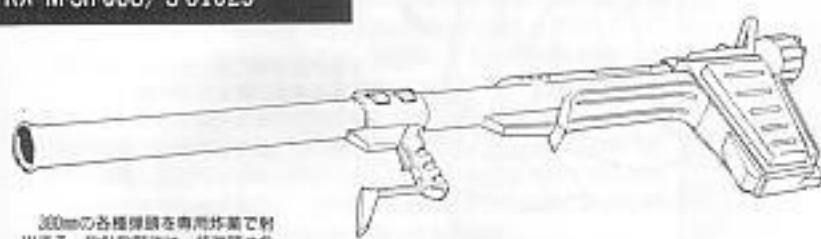
当然このシステムはコストが高く、戦闘を体験したシステムとパイロットの回収は最優先事項だった。また、小型戦闘機としても標準的な対空／対地・空間戦闘能力を持つ、非常に高密度なモジュールである。



WEAPONS

BAUVA-XBR-M-79-07G
BLASH-XHB-L-03/N-STD
RX-M-Sh-008/S-01025

RX-78は白兵戦を想定しており、MS同士の格闘を駆闘の最終段階として対応できるよう設計されている。加えて各種の武器は、当時最強の技術が持ち込まれている。

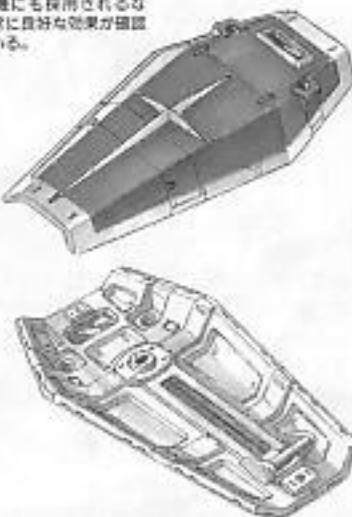


200mmの各種弾頭を専用弾薬で射出する。設計段階では、核弾頭や角雷の装備も検討されていたらしい。



ガンダムが選択足り得たのは、このビームライフルによるところが大きい。当時の武道技術の強さを持つ。

RX-78に使用される装甲構造を単純化したもので、堅牢さよりも衝撃吸収・抜熱を目的としている。防護要員のフレキシビリティは、その後の量産機にも採用されるなど、非常に良好な効果が確認されている。



RX-78の強さは、パイロットの優秀さも無視できないが、当時最強の装甲と攻撃兵器によるところも無視できない。特に、エネルギーCAP技術によって携行が可能となったビームライフルの開発は、MSという兵器の有効性や戦闘能力をドラスティックに変革した画期的な技術であった。

Explanation

Parts name of RX-78

RX-78 Snap shot

Head & Arm Unit

Leg & Body

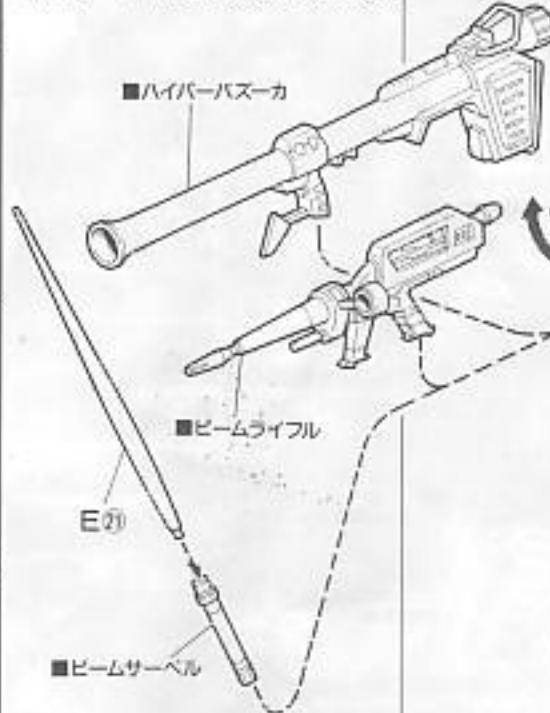
Core Fighter & Weapons

Final Assembly & Parts List

■バーニア
2組作ります。



●ビームライフルから、フックを引き出し、サイドアーマーに取り付けることができます。



●完成品をさらにリアルに仕上げたいかたは、9ページの完成写真等を見て、ディテールアップパーツA①/A②/A③を接着してください。

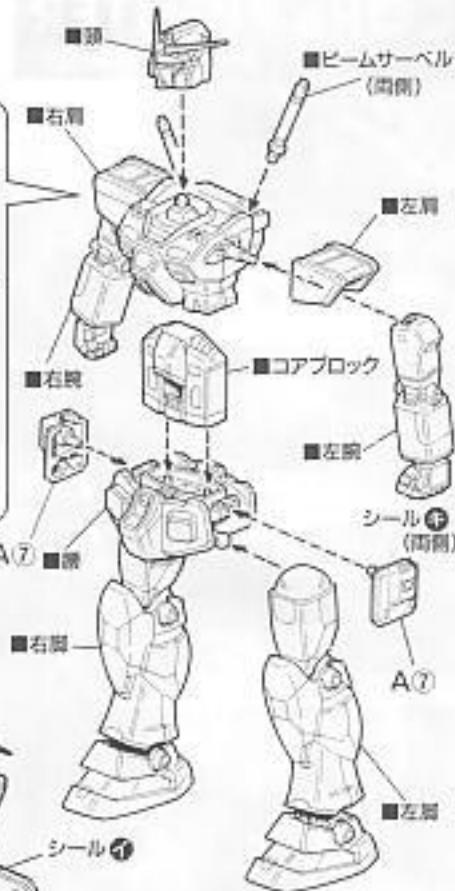
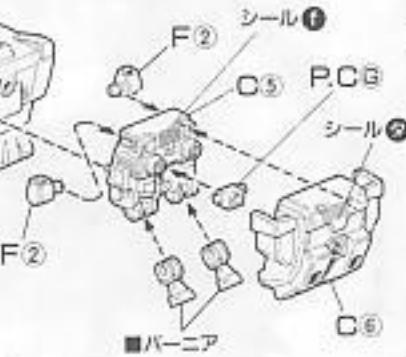
*あまつたシールや、ガンダムテカールは好きな所に、はってください。

*B13)は、好みの場所にかざってください。

11 Final Construction

(完成)

■バックパック



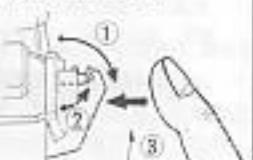
●頭部オープン状態の
時には、後からさし
込みます。

●ガンダムテカール



●各武器を手に持たせる時は指が可動する手首に変えてください。

●ハイパーアスースカをセットする時には図のように腰の後側を開きます。



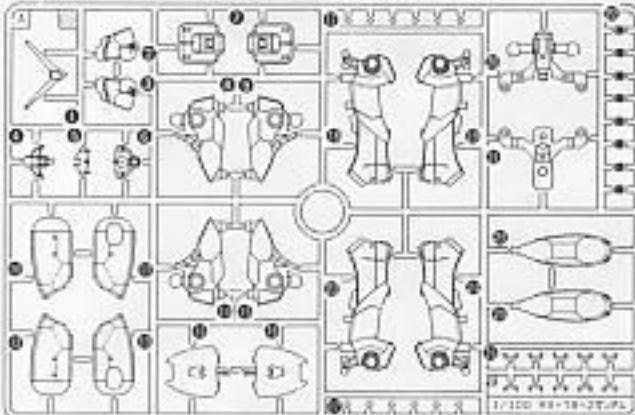
●後側を指でおさえながら
アスースカを取り付けます。



※A・B・D・E・GパーツはRX-78-2と色違いの共通パーツです。
※C・FパーツはRX-78-2と共通パーツです。

パーツリスト

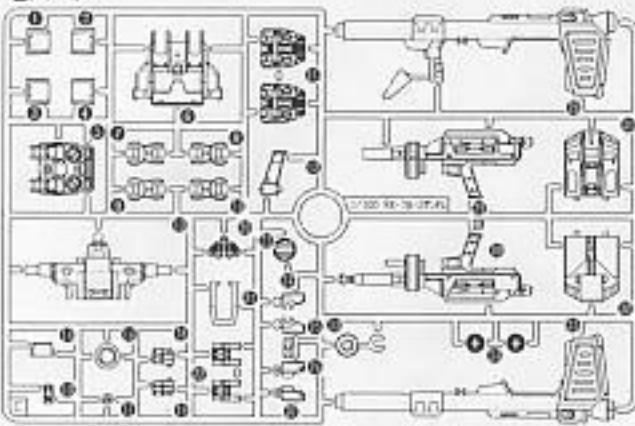
△パーツ



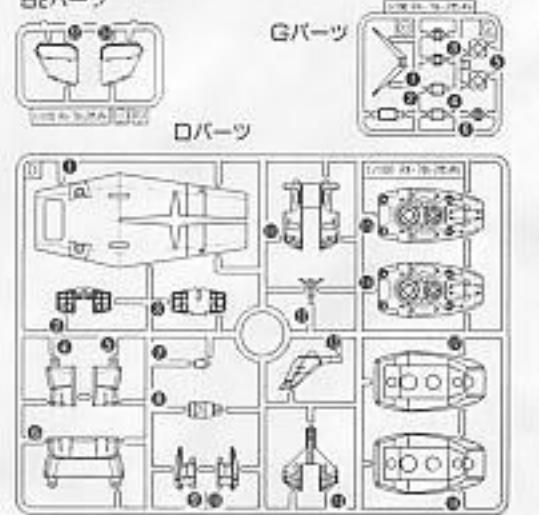
B1パーツ



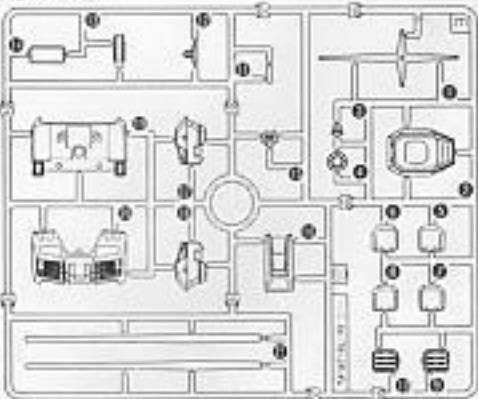
Cパーツ



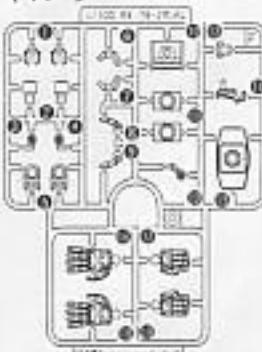
B2パーツ



Eパーツ



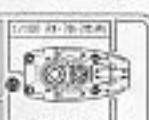
Fパーツ



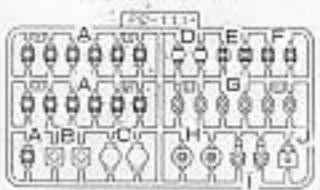
Gパーツ



口パーツ



ポリキャップ部品



●P.C.A7個、P.C.B1個、P.C.C2個
は予備です。
P.D.E・P.C.I・P.C.Fは使いません。

●シール…4種 ●ガンダムデカール…1枚（シール2種とガンダムデカールはRX-78-2と共通です。） ●メッシュ…2枚

(お問い合わせのお客様へ)

商品についてお気づきの点がございましたら、お客様相談センターまでお問い合わせください。また、部品をこわしたり、なくした人には実費でおわけします。「部品注文カード」に必要な部品の番号・数量をはっきり書いて切り取り、普通為替または定額小為替で下記までお申し込みください。代金は部品代（1個40円×個数）+郵送料（130円）+為替手数料（金額によって異なります）です。為替証書は無記入（白紙）で同封してください。なお、部品の形状・重量で郵送料に過不足が生じる時があります。部品発送の際に130円を超えるときは不足分を請求、130円以下の時には残額をお返しします。もし部品に不良品がございましたら、その部品を切り取り、商品名を書いて、下記まで封書にてお送りください。良品と交換させていただきます。

■申し込み先　株式会社バンダイ静岡工場　お客様相談センター・部品係
〒424 静岡県清水市西久保305 TEL0543-65-5315

部品注文カード

52869-2500

1/100 SCALE MGシリーズ
ガンダム RX-78-3 「G-3ガンダム」

必要な部品の番号・数量をかく

●記入された理由(○で囲む) (記入した・なくした)

部品注文は「普通為替」か「定額小為替」でお願いいたします。



協力：ホビージャパン／マックスファクトリー



地球連邦軍白兵戦用モビルスーツ
RX-78-3 「G-3 ガンダム」
1/100スケール
マスターグレードモデル

GUNDAM RX-78-3
U.N.T. SPACE PROTOTYPE CLOSE-COMBAT MOBILE SUIT

Scanned by Dalong.net